

授業科目名	生活支援技術（Ⅰ）	講師名	麻生 理津子
実施年次 ／時期	1年次 後期	時間数	30時間
概要			
1. <u>生活支援の理解</u> という観点から生活を支える基本的な考え方について理解する。 2. <u>自立に向けた居住環境の整備</u> について理解する。			
目標			
1. <u>生活支援の理解</u> という観点から生活を支える基本的な考え方について理解できる 2. <u>自立に向けた居住環境の整備</u> について理解できる			
内容			
1. <u>生活支援の理解</u> （1） 2. <u>生活支援の理解</u> （2） 3. <u>生活支援の理解</u> （3） 4. <u>生活支援の理解</u> （4） 5. <u>生活支援の理解</u> （5） 6. <u>自立に向けた居住環境の整備</u> （1） 7. <u>自立に向けた居住環境の整備</u> （2） 8. <u>自立に向けた居住環境の整備</u> （3） 9. <u>自立に向けた居住環境の整備</u> （4） 10. <u>自立に向けた居住環境の整備</u> （5） 11. <u>自立に向けた居住環境の整備</u> （6） 12. ICFの生活機能モデル 13. 生活支援のポイント・生活支援とチームアプローチ 14. 高齢化の現状 15. 後期試験			
教科書	『生活支援技術Ⅰ』最新 介護福祉士養成講座6（中央法規出版）		
授業の形態	講義		
／方法	／教科書と資料を併用。		
評価方法	筆記試験65%、レポートおよび授業参加度（態度など）35%で総合的に評価する。		
その他の事項	〔実務経験のある教員による授業科目〕 介護福祉士を取得後5年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後5年以上の看護実務がある教員が、生活支援技術の講義を行う。		
介護福祉士教育に含むべき事項	生活支援の理解／自立に向けた居住環境の整備		

授業科目名	生活支援技術（Ⅱ）	講師名	村上 洋次
実施年次 ／時期	1年次 前期	時間数	60 時間
概要 利用者が年齢や障がい、介護度のいかんに関わらず、また、施設、在宅を問わず、安心して日々を過ごすためには、介護提供者の中核となる介護福祉士の技術が何よりも重要となる。			
目標 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し見守ることも含めた介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得し統合する。また、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養い、演習で学んだことを振り返りながら、記録としてまとめる力も身につける。			
内容			
1. オリエンテーション・授業の進め方・演習時の心得	2. 環境の整備 寝具の衛生管理・意義と目的・介護の基本	3. リネン類のたたみ方	4. ベッドメイキング 2人方法
5. シーツ交換・ベッドメイキング 1人方法	6. ベッドメイキング 1人方法（計測）	7. <u>自立に向けた移動の介護</u> 、意義と目的、介護の基本、移動に関するアセスメント・移動の介助方法	8. 【実技試験】 ベッドメイキング 1人方法
9. 体位変換、安楽な体位の保持、移動介助、安楽な体位の保持・床からの立ち上がり	10. 身体拘束と良肢位について	11. 移動介助の演習	12. 車いすの介助・歩行介助・補助具の活用（福祉用具の意義と活用）
13. <u>自立に向けた排泄介護</u> 、意義と目的・介護の基本、オムツ体験について	14. 【実技試験】 移譲介助	15. 排泄に関するアセスメント	16. オムツ交（尿便器、P トイレ）の介助
			17. 【小テスト】 姿勢と体位・車いす、事故の予防と事故時の対応
			18. <u>自立に向けた食事の介護</u> 、意義と目的・介護の基本
			19. <u>自立に向けた食事の介護</u> 、食事に関するアセスメント
			20. 事故の予防と事故時の対応
			21. 安全な食事介助
			22. 自立に向けた口腔のケア
			23. 状態別口腔ケア
			24. <u>自立に向けた身支度の介護</u> 、意義と目的、介護の基本
			25. 身支度に関するアセスメント
			26. 着脱介助の演習（座位での方法）
			27. 着脱介助の演習（臥床時の方法）
			28. 着脱介助と移動介助
			29. 【実技試験】 着脱介助と移動介助
			30. 試験
教科書	最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ（中央法規出版） 最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ（中央法規出版）		
授業の形態 ／方法	講義、演習 教科書を基にした講義、演習を行う		
評価方法	実技試験 40%、小テスト 10%、演習記録の提出状況 10%、期末試験 40%		
その他の事項	[実務経験のある教員による授業科目] 介護福祉士を取得後 5 年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後 5 年以上の看護実務がある教員が、生活支援技術の講義および演習を行う。		
介護福祉士教育に含むべき事項	自立にむけた身じたくの介護／自立に向けた移動の介護 ／自立に向けた食事の介護／自立に向けた排泄の介護／福祉用具の意義と活用		

授業科目名	生活支援技術（Ⅲ）	講師名	村上 洋次
実施年次 ／時期	1年次 後期	時間数	30 時間
概要			
利用者が年齢や障がい、介護度のいかんに関わらず、また、施設、在宅を問わず、安心して日々を過ごすためには、介護提供者の中核となる介護福祉士の技術が何よりも重要となる。			
目標			
尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し見守ることも含めた介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得し統合する。また、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養い、演習で学んだことを振り返りながら、記録としてまとめる力も身につける。			
内容			
1. <u>自立に向けた入浴・清潔保持の介護</u> ・意義と目的 介護の基本・オムツ体験演習 2. 入浴・清潔保持に関するアセスメント 3. 演習 リフト浴 4. 演習 特浴 5. 演習 全身清拭 6. 演習 部分浴・爪の手入れ 7. 【実技試験の演習】ベッドからポータブルトイレへの介助 8. <u>休息・睡眠の介護</u> ・意義と目的 介護の基本 9. 【実技試験】ベッドからポータブルトイレへの介助① 10. 【実技試験】ベッドからポータブルトイレへの介助① 11. <u>自立に向けた居住環境の整備</u> ・意義と目的 介護の基本 12. 【グループワーク】居住環境について 13. 事例をもとにした介護方法を考える 14. 【グループワーク・発表】事例をもとにした介護方法 15. 試験			
教科書	最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ（中央法規出版） 最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ（中央法規出版）		
授業の形態 ／方法	講義、演習 教科書を基にした講義、演習を行う		
評価方法	実技試験 40%、小テスト 10%、演習記録の提出状況 10%、期末試験 40%		
その他の事項	[実務経験のある教員による授業科目] 介護福祉士を取得後 5 年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後 5 年以上の看護実務がある教員が、生活支援技術の講義および演習を行う。		
介護福祉士教育に含むべき事項	自立にむけた入浴・清潔保持の介護／休息・睡眠の介護 ／自立に向けた居住環境の整備		

授業科目名	生活支援技術（Ⅳ）	講師名	麻生 理津子
実施年次 ／時期	1年次 後期	時間数	30時間
概要			
<p>1. 高次脳機能障害、難病の医学的・心理的側面の基礎的な知識を理解する。</p> <p>2. 高次脳機能障害、難病のある人の生活上の影響、自立を支援するための生活支援を理解する。</p>			
目標			
<p>1. 高次脳機能障害、難病の医学的・心理的特性が理解できる</p> <p>2. 高次脳機能障害、難病に応じた生活支援技術（<u>自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護、福祉用具の意義と活用</u>）が理解できる</p>			
内容			
<p>1. 高次脳機能障害のある人の医学的理解と心理的理解（1）</p> <p>2. 高次脳機能障害のある人の医学的理解と心理的理解（2）</p> <p>3. 高次脳機能障害のある人の生活支援技術（1） （<u>自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護</u>）</p> <p>4. 高次脳機能障害のある人の生活支援技術（2） （<u>自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護</u>）</p> <p>5. 高次脳機能障害のある人の生活支援技術（3） （<u>自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護</u>）</p> <p>6. 難病のある人の医学的理解と心理的理解（1）</p> <p>7. 難病のある人の医学的理解と心理的理解（2）</p> <p>8. 難病のある人の生活支援技術（1） （<u>自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護</u>）</p> <p>9. 難病のある人の生活支援技術（2） （<u>自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護</u>）</p> <p>10. 難病や重度障害のある人への就労支援【事前学習】</p> <p>11. 「働きたい」かなえる分身ロボーパイロットの自宅からの遠隔操作の実際【演習】 （<u>福祉用具の意義と活用</u>）</p> <p>12. 模擬問題（1）</p> <p>13. 模擬問題（2）</p> <p>14. 模擬問題（1）（2）の解答と解説</p> <p>15. 後期試験</p>			
教科書	『生活支援技術Ⅲ』最新 介護福祉士養成講座8（中央法規出版） 『生活支援技術Ⅰ』最新 介護福祉士養成講座6（中央法規出版）		
授業の形態 ／方法	講義・演習 ／教科書と資料、VTRを併用。		
評価方法	筆記試験70%、授業参加度（態度など）30%で総合的に評価する。		
その他の事項	[実務経験のある教員による授業科目]介護福祉士を取得後5年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後5年以上の看護実務がある教員が、生活支援技術の講義を行う。		
介護福祉士教育に含むべき事項	自立に向けた移動の介護／自立に向けた身じたくの介護／自立に向けた食事の介護／自立に向けた入浴・清潔保持の介護／自立に向けた排泄の介護／自立に向けた家事の介護／休息・睡眠の介護／福祉用具の意義と活用		

授業科目名	生活支援技術 (VI)	講師名	麻生 理津子
実施年次 ／時期	2年次 後期	時間数	30 時間
概要			
<p>1. 内部障害の定義、分類、症状について理解する。</p> <p>2. 心臓、呼吸器、腎臓、排泄器官（膀胱・直腸）、小腸、肝臓のそれぞれの機能障害のある人の生活上の影響、自立を支援するための生活支援を理解する。</p>			
目標			
<p>1. 心臓、呼吸器、腎臓、排泄器官（膀胱・直腸）、小腸、肝臓のそれぞれの機能障害の医学的・心理的特性が理解できる</p> <p>2. 心臓、呼吸器、腎臓、排泄器官（膀胱・直腸）、小腸、肝臓のそれぞれの機能障害に応じた生活支援技術（自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）が理解できる</p>			
内容			
<p>1. 内部障害の基礎的理解</p> <p>2. 心臓機能障害のある人の医学的理解と心理的理解</p> <p>3. 心臓機能障害のある人の生活支援技術 （自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）</p> <p>4. 呼吸機能障害のある人の医学的理解と心理的理解</p> <p>5. 呼吸機能障害のある人の生活支援技術 （自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）</p> <p>6. 腎臓機能障害のある人の医学的理解と心理的理解</p> <p>7. 腎臓機能障害のある人の生活支援技術 （自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）</p> <p>8. 膀胱・直腸機能障害のある人の医学的理解と心理的理解</p> <p>9. 膀胱・直腸機能障害のある人の生活支援技術 （自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）</p> <p>10. 小腸機能障害のある人の医学的理解と心理的理解、小腸機能障害のある人の生活支援技術 （自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）</p> <p>11. 肝臓機能障害のある人の医学的理解と心理的理解、肝臓機能障害のある人の生活支援技術 （自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）</p> <p>12. 模擬問題（1）</p> <p>13. 模擬問題（1）の解答と解説</p> <p>14. 模擬問題（2） 解答と解説</p> <p>15. 後期試験</p>			
教科書	『生活支援技術Ⅲ』最新 介護福祉士養成講座 8（中央法規出版）		
授業の形態／方法	講義／教科書と資料を併用。		
評価方法	筆記試験 70%、授業参加度（態度など） 30%で総合的に評価する。		
その他の事項	〔実務経験のある教員による授業科目〕 介護福祉士を取得後 5 年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後 5 年以上の看護実務がある教員が、生活支援技術の講義を行う。		
介護福祉士教育に含むべき事項	自立に向けた移動の介護／自立に向けた身じたくの介護／自立に向けた食事の介護／自立に向けた入浴・清潔保持の介護／自立に向けた排泄の介護／自立に向けた家事の介護／休息・睡眠の介護		